

# (総括評価表) 3 熊本地震からの創造的復興

## 現状と課題

・熊本地震からの復旧・復興は、県民一丸となった取組みにより、着実に進んでいます。

・最重要課題である「すまい」の再建については、仮設住宅入居者の約99%に当たる4万7千人の方々が住まいの再建を実現するとともに、いまだ仮設住宅で生活されている方々についても、自宅の再建が進められています。

・また、令和2年(2020年)8月のJR豊肥本線の全線運転再開や、10月の国道57号北側復旧ルート及び現道の開通に加え、令和3年(2021年)3月には国道325号阿蘇大橋ルートが開通しました。南阿蘇鉄道についても、令和4年度(2022年度)末の復旧工事完了を予定しており、阿蘇へのアクセスルートは着実に回復しています。

・さらに、阿蘇くまもと空港においては、令和2年(2020年)4月に熊本国際空港株式会社による空港運営が開始され、令和5年(2023年)春の新しいターミナルビルの完成に向けて準備が進むなど、大きな変革を見せています。

・一方で、住まいの再建や被災企業等の支援、益城町の復興まちづくりなど、引き続き取り組むべき課題があります。

## 取組みの方向性

・熊本地震からの創造的復興の総仕上げに向け、残された課題を確実に解決し、熊本の更なる発展につなげます。

## (1) 実現に向けた施策

### 施策1 くらし・生活の再建

【具体的な施策】	R4	事業数	予算額
		9	1,555,988千円
① 「すまい」の再建			
② 被災企業の事業再建			

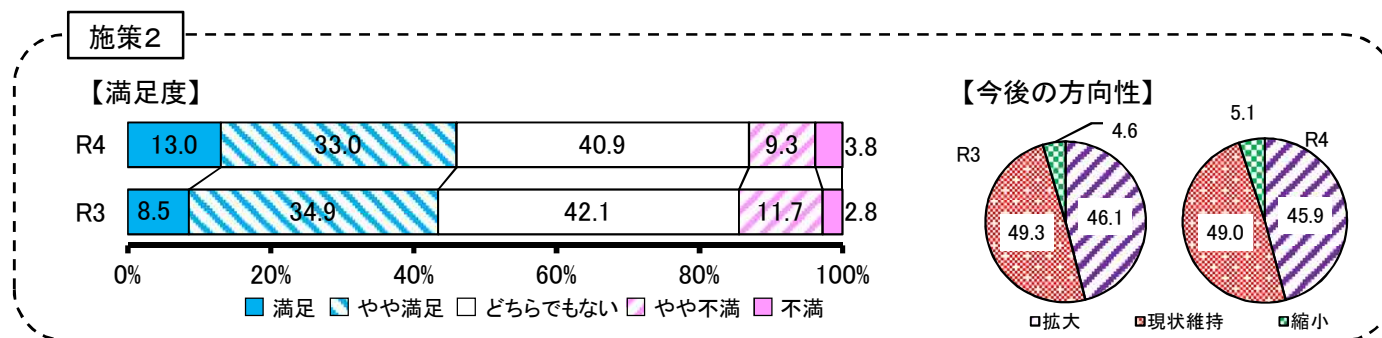
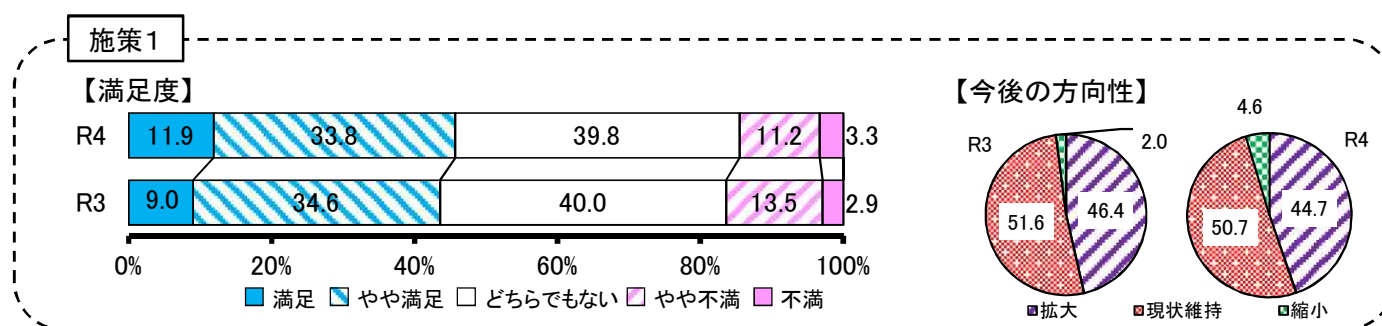
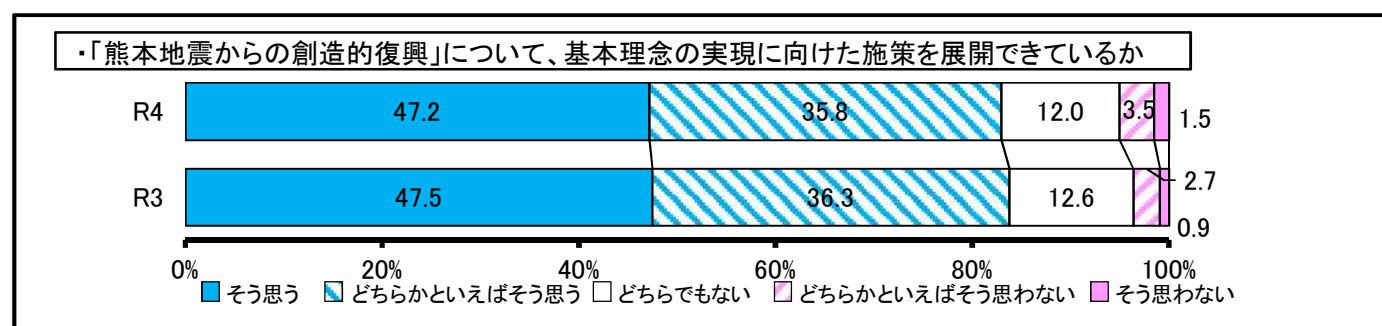
### 施策2 創造的復興の推進

【具体的な施策】	R4	事業数	予算額
		25	9,375,062千円
① 益城町の復興まちづくり			
② くまもとの誇りの回復と宝の継承			
③ 阿蘇地域の振興			
④ 「大空港構想」の実現			

## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の動向

No.	評価指標	戦略策定時実績値 (R1)	戦略策定時実績値 (4年累計平均)	R2実績値 (R3評価)	R3実績値 (R4評価)	R4実績値 (R5評価)	単位	指標の動向 (策定時との比較)	指標の動向 (前年度との比較)	目標値の達成状況を評価する実績値	目標値 (R5)	種類	達成状況
施策2 創造的復興の推進													
30	益城町市街地部の人口回復率	19%	—	35	48	—	%	↗	↗	48	50%	累計	
31	熊本と阿蘇の交通量の回復状況	32,700台/日	—	37,800	38,600	—	台/日	↗	↗	38,600	39,400台/日	単年	
32	空港周辺における新産業振興策(UXプロジェクト)の取組みに係る企業・団体等の参加数	—	—	12	36	—	企業・団体等	↗	↗	48	40企業・団体等/4年	4年累計	☆

## (3) 県民アンケート





(4)令和3年度の主な成果・今後の課題や方向性

令和3年度の主な成果

今後の課題や方向性

【施策1】くらし・生活の再建

①県独自の「6つの支援策」により、熊本地震におけるピーク時(H29年5月)の被災者47,800人のうち、約99%に当たる約47,705人の方が住まいの再建を果たした。

②3市町村の地域支え合いセンターの運営支援や、地域の縁がわ団体への補助率嵩上げ等の支援を行い、被災者の見守りやコミュニティづくりを推進した。

③再建途上にある被災事業者延べ340者へのプッシュ型支援や、他事業者の参考となる取組み延べ136者へのモデル型支援を実施するとともに、グループ補助金の申請予定件数のうち、99.8%の復旧が完了した。

①公共工事の影響で自宅再建が完了しない方々については、災害救助法による支援から県・町独自支援に切り替え、災害公営住宅等を活用し、最後のお一人が住まいの再建を果たすまで、寄り添った支援を行う。

②仮設住宅退去後にも必要な支援が受けられるようにするため、市町村や地域支え合いセンターと連携し、被災者の状況に応じて、既存の福祉サービスへの移行や地域全体での見守りを進める。

③個別企業の課題に対して特任経営指導員や専門家によるきめ細かな支援を継続するとともに、益城町の土地区画整理事業の完了を待つ事業者に対しても、県単独予算のグループ補助金により最後の1者まで支援する。



地域支え合いセンターの相談員による訪問活動



地域の縁がわ



グループ補助金による健軍商店街における商業施設の復旧



【施策2】創造的復興の推進

①益城町の土地区画整理事業では、R3年度内に仮換地指定が約7割となり、造成工事が完了した88画地を権利者に引き渡した。また、県道熊本高森線4車線化については、R3年度内に延べ1,819mの歩道が完成した。さらに、町が木山交差点付近で整備していた「益城町復興まちづくりセンター」「にじいろ」がR3年度末に開所した。

②熊本市の「熊本城復旧基本計画」の円滑な実施を図るため、熊本城文化財修復検討委員会において復旧方法の検討を支援した。また、県の文化財等復旧復興基金から熊本市の実負担額を全額拠出し、復旧を支援した。

③阿蘇地域の観光復興キャンペーン「I'm fine! ASO」をR2年度に引き続き実施し、R3年10月にはその一環として、阿蘇の観光プロモーションとして作成したWEB動画「阿蘇の不時着」を公開したところ、九州・関西を中心に107万回再生を超えた。また、阿蘇の世界遺産暫定一覧表入りに向け、国・県・市町村が連携して景観に配慮した公共事業を推進するため、R3年10月に「阿蘇景観保全会議」を設置した。さらに、学術委員会や国際専門家ワーキンググループを開催し、世界遺産暫定一覧表に係る提案書の再提出を行った。

④震災ミュージアムについては、「熊本地震震災ミュージアム基本計画」に基づき、中核拠点施設の設計(展示構成等に係る設計を含む。)を行った。また、南阿蘇鉄道については、復旧工事に係る資金繰り支援など、復旧工事の着実な実施に向けた経営支援を行った。

⑤UXプロジェクト\*について、基本構想を踏まえた基本計画・実施計画を策定するとともに、イベントの開催、企業や学生による実証実験等を通じてプレイヤーの集積を図った。

①土地区画整理事業では、引き続き権利者への丁寧な説明による仮換地指定、早期の宅地引渡しを目指していく。また、県道熊本高森線4車線化については、権利者が生活の再建や生業の継続に不安を抱かぬよう町と連携して丁寧に交渉を進めながら、交通量が多く事業効果の高い熊本市～惣領交差点までの早期完成を目指す。

②熊本城の復旧完了(2037年度予定)や、復元過程の観光への活用について、中長期的視点で市や国と連携していく。また、熊本城文化財修復検討委員会において復旧方法の検討を継続するとともに、熊本城天守閣の一般公開等の情報発信の支援を行う。

③コロナ禍の中でも阿蘇の大自然と、それらに育まれた歴史や文化、食などを感じられるものをコンセプトとして「阿蘇を体感・体験できるイベント」を実施する。また、阿蘇の世界遺産暫定一覧表入りに向けては、「阿蘇景観保全会議」において、国、県、市町村が連携して景観に配慮した公共事業を推進する。さらに、学術委員会等を開催し、世界遺産としての価値の深化を図るとともに、シンポジウムの開催等により普及啓発を行う。

④震災ミュージアムについては、中核拠点施設の整備、展示物の収集を着実に進めるとともに、語り部養成のための研修をはじめとした関係市町村との連携事業を推進する。また、南阿蘇鉄道については、災害復旧工事に係る補助を行うとともに、上下分離方式導入による事業構造の変更等を推進してR4年度末の工事完了を目指す。

⑤社会課題解決型の実証実験に加え、支援体制強化やイノベーションハブの整備などを推進することで、ビジネスの創出に繋がる支援体制や環境整備の取組みを行う。



益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」



内部公開が開始された熊本城天守閣



WEB動画「阿蘇の不時着」



世界遺産暫定一覧表に係る提案書の再提出



南阿蘇鉄道災害復旧工事(第一白川橋りょう)



UXプロジェクトキックオフイベントにおける企業の取組紹介

\*UXプロジェクト：変革する空港周辺地域を、医療、介護、健康、食、ビューティー、農業など熊本の強みを活かせる分野における新産業創出の拠点とすべく、人・もの・技術・情報が集まる“知の集積”を推進する取組み。